

○福田 健・上和田秀美

(鹿児島農試)

【目的】

コマツナ、チンゲンサイ、ミズナ等の軟弱野菜は登録農薬が少なく、生産者はハスモンヨトウ、コナガに対する防除対策に苦慮している。そこで、コマツナの施設栽培で両種に対して交信攪乱剤を利用し、防除効果の検討を行った。

【材料および方法】

試験は鹿児島市吉田で行い、コナガコンとヨトウコンHの併用区（以下、2種併用区）と無処理区をそれぞれ設置し、2003年9月16日～12月26日、2004年7月26日～12月15日の2カ年行なった。交信攪乱剤の処理は2003年がいずれも9月25日、2004年ではヨトウコンHが7月26日、コナガコンが9月15日に行った。調査は両区にハスモンヨトウおよびコナガの性フェロモントラップをそれぞれ1カ所ずつ設置し、誘殺数を計数した。また、被害調査は両区とも任意にコマツナを300株ずつ選定し、被害株を計数した。

【結果および考察】

1) 性フェロモントラップへの害虫の誘殺数

性フェロモントラップへの対象害虫の総誘殺数は表1に示すとおりである。2種併用区では2003年、2004年ともにハスモンヨトウ、コナガのいずれも0頭であった。一方、無処理区ではハスモンヨトウが2003年に12頭、2004年に64頭、コナガが2003年に11頭、2004年に20頭で、対象害虫に対して誘因阻害が認められた。

2) 防除効果

2003年の結果を図1に示した。被害株率は2種併用区が10月9日まで2%以下で推移し、10月21日には9.3%になったが、その後減少し、11月4日以降は概ね2%以下で推移した。一方、無処理区では10月14日が15.0%、10月21日が17.3%になり、その後、12月1日まで5%前後で推移した。

2004年の結果を図2に示した。被害株率

は2種併用区が8月17日まで3%以下であったが、8月31日から9月21日まで5%前後で推移し、9月28日には7%になったが、その後は4%以下で推移した。一方、無処理区では8月17日まで4%以下であったが、8月23日から被害が目立ちはじめ、被害株率は9月2日が23.0%、9月8日が15.7%、9月28日が19.0%になり、その後は2～6%に減少したが、10月25日、11月1日がそれぞれ9.7%、13.0%まで増加した（図2）。

以上のことから、ヨトウコンHとコナガコンの2種併用区は無処理区と比較して、ハスモンヨトウ、コナガに対して交信攪乱効果があったものと考えられる。また、両種によるコマツナの被害も少なかったことから、被害抑制効果があったものと考えられる。

表1 性フェロモントラップへの対象害虫の総誘殺数

	ハスモンヨトウ		コナガ	
	2003	2004	2003	2004
2種併用区	0	0	0	0
無処理区	12	64	11	20

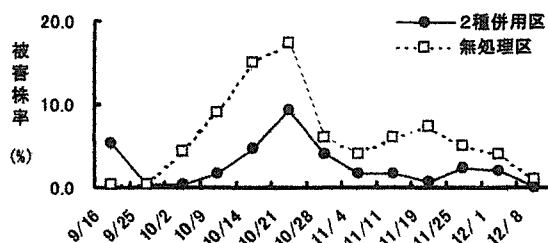


図1 両区でのハスモンヨトウおよびコナガによる被害の推移(2003)

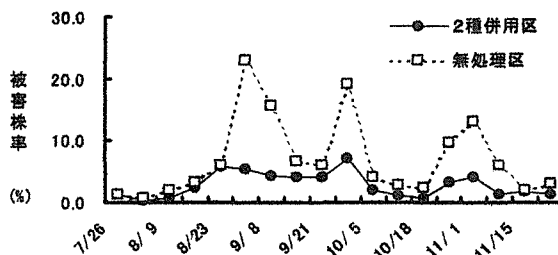


図2 両区でのハスモンヨトウおよびコナガによる被害の推移(2004)